ヨブ呼んでるよ

西尾佳織

登場人物

たかを……男。色々な人の夢に登場する謎のオジサン。
希帆（キホ）……女。風俗嬢。現在は引きこもって働いていない。
金田（カネダ）……男。希帆の兄。
弥太郎（ヤタロウ）…男。金田の後輩。
美和子（ミワコ）……女。希帆が住みついている部屋の大家。

時

現代。

場

舞台全体に敷き詰められている藁が、聖書に登場する馬小屋を思わせる。テーブルや椅子が点々と置かれているが、どれも脚が切断されていたり、座面が切断されていたり、かと思えば背もたれが異様に長く伸びてしまっていたりする、不具の家具。でも与えられた世界がそれならそれで、生物は適応する。

地面に一ヶ所ポッカリと穴が開いていて、たかをだけがそこを通過出来る。たかをはこの世界に遍在する。穴から時々、謎の白い煙が噴き出してくる。

演出ノート

ヘブライ語では、「言葉」と「出来事」という二つの意味がどちらも「ダバール」という単語で表される。神の言葉は耳に聴こえるわけではなく、すべてこの世界に起こる出来事という形で現れる。言葉と出来事がイコールで結ばれた状態が言葉の始まりだったとしたら、今、私たちの言葉は、そこからなんと遠くにあるのだろうか。

出来事をいい加減に扱った言葉が、「不適切でした」とお辞儀と共に次々に撤回され、捨てられる。「表現が間違っていました（が、間違っていたのは言葉であって、その言葉をそのように使った私は間違っていません）。申し訳ありません」という、言葉とその内実が正反対みたいなことが見過ごされ、人間の身代わりにされた言葉がどんどん死んでいく。言葉で自分を組み立てて支えている人間も社会もやがて、死ぬだろう。

出来事と一致した言葉、それ以上でもそれ以下でもないぴったりそのものの言葉、それは人間には永遠に書けない言葉なんだと思うけれど、その現実には現れ得ない言葉のある場所を考えたいと思った。

1

たかをちゃん

たかを、穴の中から現れる。穴の縁に立ち、藁の海へダイブする。そのまま、クロールや背泳ぎやでんぐり返しを楽しむ。

希帆がやって来る。しばらく、たかをを見つめている。

希帆　子供の頃から、よく夢に出てくるオジサンがいる。

たかを　あ。（気付いて手を振る）

希帆　（振り返しながら）オジサンって言っても、今じゃもうそんな変わんないけど、最初に彼を認識した頃は、私は子供で、彼はそのときから今の姿だった。

希帆、子供の喋り方で喋る。

希帆　え、誰ですか？

たかを　あ、たかをちゃんです。

希帆　はあ？

たかを　あれ？　名前じゃなかったですか？

希帆　そうじゃなくて、なんでいっつもいるんですか？

たかを　？

希帆　気持ち悪いんですけど。

たかを　ごめんなさい。

希帆　最初はモブかと思ってたけど、実は毎回いますよね？

たかを　毎回？

希帆　そういうトボけるのとか、いいんで。最初は背景くらいの存在感だったのに、見つけたらずんずん目立ってきましたよね。何なんですか？

たかを　そんなこと言われてましても……。それは、キミの目がそう見ているだけではないですか？

希帆　は？

たかを　よく分からないんですけども、僕はずっと普通にいるだけで、あなたにも初めて会ったし。今いきなり話しかけられて、すごくビックリしています。

希帆　（相手は自分を認識していなかったというので、恥ずかしい気がしてくる）

たかを　誰ですか？

希帆　え

たかを　あの、あなたのお名前はなんと言いますか？

希帆　希帆です。

たかを　キホちゃん。文字は？

希帆　希望の希に帆かけ船の帆です。

たかを　たかをちゃんは、齊藤たかを先生のたかをちゃんです。

希帆　知らない。誰？

たかを　大人になったら読んだらいいよ。

希帆　ふーん

金田、やって来て、希帆に電話をかける。

希帆とたかを、見ている。

金田　……あ、もしもし？　お前今どこ？　は？　まだ家にいんの？　なんで？　……や、理由じゃなくて、遅れるなら遅れるで一報入れろっつってんの。あ、そうかじゃねーよバカ。あーもういいかヨブ呼んでるよ

ら、とにかく早く来いよ。

金田、電話を切って、そのまま居る。

サイダー

たかを で、希帆ちゃん。どうしたの？

希帆 いや別にどうもしないけどさ。つーか、なんかないとダメなの。

たかを 荒れ模様ですかな。

希帆 ……。

希帆、無になって、たかををスルーして不安にさせる遊び。

たかを あれ？　おーい、もしもーし。

希帆 ……ん？

たかを ちょっとーそれ～！（笑）

希帆 っあー。死にてー。

たかを え。希帆ちゃん、死にたいの？

希帆 そうだね。死にたいね。

たかを へえ～。え、それは、なんで？

希帆 なんでっていうか、この状況で死にたいと思わない方がおかしいでしょ。

たかを へー（？）

二人 ……。

希帆 全然わかってねーだろ。

たかを うーん、ちょっと…。あー、見ても（？）、わからない。

たかを、希帆のことを理解しようとしたポーズを取ろうとして、意味不明な言い訳。

希帆 ……まあそうだろうね。これ夢だからさ。現実では私はめっちゃ太ってて、仕事もなくて、きったねー部屋で毎日なんもしないで酒ばっか飲んで、今のところかろうじて死なないでいるだけで、ホント生きてる価値がない。ていうか意味がなくて死にたい。

たかを そっかぁ……。寂しくなるね。

希帆 え？

たかを ……うん。

希帆 や、え（笑）

たかを （しゅんとしている）

希帆 いや、なんかもうちょっと、止めたりしなよ。

たかを え、なんで？

希帆 や、そういうもんじゃん。

たかを でも、希帆ちゃん死にたいんだーと思って。

希帆 死にたいとは言ったけど、そう簡単に死なないよ。てか、死ねないよ。

たかを あー。たぶん自分、あんまり分からないやつかもしんない。

希帆 ほんとだよ！　人の機微ってもんが分からないやつだな。ビックリする！

たかを ソーリー。

希帆 まあいいけど。

たかを サンキュー。

希帆 でも夢じゃなかったら私たぶん、たかをちゃん無理だと思うわ。

たかを ドイヒー。

希帆 適当だな。おめー全然考えねーで喋ってるだろ。

たかを　や、考えてるよ。
希帆　例えば？
たかを　え、希帆ちゃんが死にたいのは、ほんと？
希帆　そうね。
たかを　だとしたらどういう死に方が一番いいかなー？　と思ってた。
希帆　お。いいじゃん。
たかを　（Yeah って感じ）
希帆　なんなの（笑）
たかを　でも僕も死に方はけっこう考えるな。
希帆　え、たかをちゃんも死にたいと思うことあんの？
たかを　うーん……ないかな。
希帆　なんだよ（笑）
たかを　でも死にたくなくても死ぬじゃんね。
希帆　まあね。
たかを　一番死に近いって思ったときね、
希帆　え、たかをちゃんの話？
たかを　そうそう。
希帆　珍しいね、自分の話。
たかを　（うなずく）妹が、部屋にサイダー持って来てくれたのね。
希帆　うん。
たかを　僕サイダー飲んだことなくて、普段はすぐおしっこ行きたくなるから水飲むのあんま、我慢してたんだけど、
希帆　え、なんで？　行けばいいじゃん。
たかを　うんでもちょっと、そうしない方がよかったから。
希帆　意味わかんない。それで？
たかを　でもそのときは、すごいサイダー飲みたくて、飲んじゃって、飲んだらやっぱり甘くてすごい美味しくて、すげー！　僕このことはきっと一生忘れないだろうな！！！　と思った。
希帆　大袈裟だね（笑）
たかを　でもそう思ったんだよ。で、でもその後案の定すごいおしっこしたくなってきて、あ、どうしようヤバイヤバイヤバイ、と思ってしばらく我慢してたんだけどやっぱ我慢できなくて、今から行ってももう間に合わない（と思って）
希帆　え、待って。
たかを　なに？
希帆　待って。ください。Wait.
たかを　うん、待ってる。

希帆とたかをの、二人にしかノリの分からない遊び（クラスの中だったら、この人たち浮いてそう、ていう）。

希帆　ハイ、たかをー。なんでそんな我慢した？
たかを　や、
希帆　トイレには、行けー。あとなんでそんなにお前のウチはトイレが遠いのか？　先生はそれが疑問ダー。
たかを　でも壊れてたから。
希帆　たまたまそのとき？
たかを　や、ずっと。
希帆　ずっと？
たかを　うん。ていうことになってたけど、でもお母さんも妹も使ってたからホントはたぶん使えるは使えるんだけど、僕は外のトイレを使うっていうルールになってたから。
希帆　何それ。
たかを　うーん、そのトイレがけっこう遠かったのと、あと夜中じゃなヨブ呼んでるよ

いと人に会っちゃうから、なるたけ行かないで済むようにしたかったんだよね。

希帆　……。

たかを　それで結局そのときはおしっこ漏らしちゃって、あーどうしようどうしようと思いながらジョジョジョーって流れて出ていくのを、見てた。今だったらもっと色んな選択肢が浮かぶし、それを当時の自分に伝えてあげたいと思うんだけど、そのときはホントに白紙で、出始めちゃったらなすすべなく立っていて、妹もそれをじっと見てて、あー僕は、こんなことしちゃって殺されるかもしれない、とたぶん妹もどっちも思ってて。でもサイダー、ほんと美味しかったなぁと思って、いいや、僕サイダー飲めてよかったよ～と思ってるよ～ってのが妹にも伝わって欲しい。と思った。

たかを、人間の力でフェードアウトしていく（藁に埋もれる）。

希帆は取り残され、夢が終わる。

お兄ちゃん

希帆、兄と待ち合わせた現実の時間になる。

希帆　……ごめんなさい。

金田　（希帆に気付き）うわお前、マジかよ。

金田、席に着く。希帆は座らない。金田と正対しないように視線をずらし、うつむき気味で、立っている。

希帆　え？

金田　いや、その恰好。それで外出て恥ずかしくないの？

希帆　え、あ、

金田　ッとに、だからダメなんだよ。恰好ひとつとっても表れてるよ。こうやって人待たせて平気なところとかもさ、おれからしたらマジで信じらんないけど、全部つながってるよね。

希帆　……。

金田　今なに感じてんの？

希帆　……。

金田　え、なんも感じてないの？

希帆　……。

金田　何か言えよ、ウソでもいいから。せめてなんかもうちょっと申し訳なさそうにするとかねーのかよ。

希帆　……（何か言いかけてやめる）。

金田　何？

希帆　……前に、形だけのことはするなって、

金田　は？　そういうことじゃねーだろ。

希帆　……。

金田　（ため息）これももう何度も言ってるけど、お前はどうしたいの？おれはお前じゃないんだから、言ってくれないと分かんないよってことをこっちは、言ってるだけじゃん。それがなんか不満ってこと？　おれだってヒマじゃないんだよ。

希帆　……頼んでないです。

金田　は？

沈黙

金田　……え？　で？　何が言いたいの？
希帆　……。
金田　（それでだんまりって）どういうことなんだよ……。
希帆　……。
金田　え、よく分かんないんだけどさ、困ってんだよね？　で、おれが相談に乗ってるって、そういう流れだよね？　そっからして間違ってる？
希帆　……。
金田　や、今これはマジで分からないから質問してるんだけど。
希帆　……それで合ってます。
金田　頼んでんじゃん。
希帆　や、さっきのはそういうことじゃなくて
金田　（キレ気味）じゃどういうこと？
希帆　！
金田　あー、ごめんちょっと。ごめん。え、それで？
希帆　……。
金田　……や、悪かった。聞くから、どういうことか言ってみ。
希帆　……。

間

金田　……あ、忘れないうちにこれ。（財布から札を出して、生のまま渡そうとする）
希帆　……。（受け取ろうとしない）
金田　え？
希帆　……いいです。
金田　は？　何言ってんの。
希帆　……。
金田　いいから取れよ。
希帆　いいです。
金田　え、なに？　じゃあ何とかする目星付いたってこと？　無理でしょ。
希帆　……。
金田　ほら早くしまえよ。
希帆　いらないです。
金田　はあ！？
希帆　……。
金田　（一旦引っこめる）じゃあどうするつもりなのか話せ。
希帆　……いいです。
金田　「いい」じゃねーよ。話せっつってんの。
希帆　あなたに話すこと、ないです。

金田、立ち上がり、希帆を無理矢理座らせて、頭をつかんで顔を上げさせる。

金田　お前、人と話すときはちゃんとしろっていつも言ってんだろ。
希帆　……。
金田　話せ。
希帆　……。
金田　何度も言うけど、おれとお前は別の人間なんだから、言葉で言ってくれないと分かんないから。
希帆　言ってもどうせ否定するくせに。
金田　は？
希帆　あなたに何を言っても結局全部自分の基準で聞いて、言葉が全然

届かない。から、もう話すことが空しい。

金田　え、おれが悪いの？

希帆　や、そうじゃなくて……。私がもう耐えられないんです。

金田　意味がわからん。おれが悪いって言ってるとしか思えないんだけど、どう考えてもおかしいのはお前だろ。

希帆　「無垢な者も逆らう者も、同じように滅ぼし尽される。わたしに罪があると言わないでください。なぜわたしと争われるのかを教えてください。このように、人間ともいえないようなものだがわたしはなお、あの方に言い返したい。わたしは正当に扱われていない」

金田　は？　お前何言ってんの？　おれが言ってんのは、これからどうすんの？　って。ねぇどうすんだよ宗介と未知可！

希帆　何とかするから。

金田　だからその方法を言えって。

希帆　そんなの今急に言われてもわかんない！

金田　急じゃねーだろ！　何とかする何とかするって言って結局なんにもしねーじゃねえかよ。さんざん信用裏切ってきたのはお前だろ。

希帆　ごめんなさい。

金田　どうにもする気、ないだろ。昔からお前は全部そう。金のことも男のことも、うまくいって気分いいときだけ調子こいて、なんにも自分で責任とんねーじゃん。おれだけじゃないよ、周りの人間が今までどれだけお前のために動いて、お前に代わって頭下げてきたか分かってる？　言わないだけで、お前のせいで苦労してるやつが死ぬほどいるぞ。

希帆　……。（泣き出している）

金田　今のその態度も言葉も、全部自分に返ってくるから。

希帆　……なんでそんなに独善的なの？

金田　はあ！？

希帆　他人がみんなあんたと同じ価値観で生きてるわけじゃないんだよ。

金田　……お前、どうしてそうなっちゃうの。だから人が離れんだよ。

希帆　あんたが何を知ってんの。

金田　ちょっと落ち着け。いい？　おれはおれの話なんかしてないよ。とにかく子供をどうすんの？　どうにかする気があるんですか？　ってことを言ってます。今明らかにおかしいのは、お前。異常だよ？　なんでそんな攻撃的なの？　お前の顔も体型も生活も全部、異常。おかしいでしょ。なんでそんなに弱いんだよ。正直お前のこと考えると気が狂いそうだよ。もう見たくないしここに来るのも嫌でしょうがねーよ。でもおれはお前と違ってそういうものから逃げないから。物事には絶対に原因と結果があるし、いい結果をつかみたかったら悪い原因を潰して、今ある状況を一個一個よくしてくしかないし、それを怠るヤツのことをおれは軽蔑する。それはお前にもさんざん言ってきた。子供なんか一番そうじゃん。原因と結果、超分かりやすいでしょ。どう考えてもあいつらを造ったお前と相手の男の責任でしょ。そりゃお前が苦しんでるのはよく分かってるし、おれはお前に幸せになって欲しいから、頼られれば金だって貸すし、いくらでもお前のために動いてやると思ってきた。し、実際そうしてきたつもり。でもおれにはお前が、自分から悪い方に悪い方に動いてるようにしか見えないし、ちょっともう理解してやりたいとも思えない。お前は見ないフリして、ないことにしてるけど、そうやって逃げ回ってる間にも子供はどんどん育ってるし、他のやつらはそれぞれに上手くいったりいかなかったり、努力したりへこんだりしてんだよ。

間

ヨブ呼んでるよ

希帆　……お兄ちゃんは、全部私に原因があると思ってるんだね。
金田　そうは言ってない。
希帆　ね、そうやって全部私が悪いことにすれば、いいよね。
金田　は？
希帆　でも、でも私が間違ってるとしてそれが、何なの？　あんたに何の権利があってそんな…そんな風に言われても、受け止め切れない。
金田　……。
希帆　宗介と未知可が不幸なのが、造った私のせいなんだったら、私の不幸は誰が造ったの？

金田、答えないまま、去る。希帆、取り残される。

2　貧乏な悪人

希帆の脳内の混乱であるかのように、弥太郎がカットインしてくる。えんえん無対象に独り言を言っているように見えるが、実はイヤホンでオンナに電話している。

弥太郎　うん、そう、首をゴギンて、顎押して、回し倒すいうんか、そしたらびっくりするほどすぐ折れる。で、ここで最大のびっくりかつショッキングポイントなんは、「あーこんなもんなんやー」という自分の柔軟さ。や、「やりたないなー」と最初は抵抗してんけど、わりとすぐ「あ、今おれ折れた」と気付いて、かなしなった。そうね、かなしいね。でも、それもその瞬間がピークで、「もーでもあとはなんぼやっても変わらんな」てなってくんねん。や、お前も絶対そうなんで。な、怖いやろー。でもそやねん。次々流れてくんねんから。え？　いや、だってもう流れはあんねんもん。だし、手止めたらおれが詰む。あとはもう、どうすんのがいっちゃん力いらんとか、この角度やと手首痛なるとかが関心事んなって、やがてそれも考えんくなって、そいであとはもっぱら小骨のこと考えてたね。うん、小骨。やーなモンやな、あれは。ずっと喉にチロチロおって、いつまで経っても離れへん。ん？　や、ウナギウナギ（笑）昨日めっちゃ久しぶりに食ってんけど、最高やったわ。

美和子　そう？

いつの間にか、美和子がテーブルに着いている。
希帆は後景に退いて、弥太郎の夢の世界のモブのようになっている。

弥太郎　あ、はい。めっちゃ美味いっす。（と言って弥太郎も、席に着く）
美和子　よかった。
弥太郎　え、でもいいんすか？　こんな豪華なもんご馳走になってしまって。
美和子　いいのいいの！　気にしないで。どんどん食べて。
弥太郎　やー。でもさすがにもう食えないすね。
美和子　あ、そうなんだ。
弥太郎　はい。
美和子　なんだ残念。
弥太郎　え
美和子　もっとたらふく食べてもらって、弥太郎くんが私に恩義を感じ

るように仕向けたいと思ってたんだけど（笑）

弥太郎　えー？（笑）そんなんもう十分感じてますよ。

美和子　ほんと？

弥太郎　当たり前じゃないすか。すでに今、絶頂っす。

美和子　よかった。

弥太郎　つか、別にこんなんなくてもいつでも、おれで力になれることがあったら呼んでください。

美和子　嬉しい。ありがとう。

オット

美和子　夢にね、たまに夫が出てくるの。

弥太郎　え

美和子　なに？

弥太郎　美和子さん、結婚してはったんですか？

美和子　してるというか、してたというか。

弥太郎　あ、すんません。

美和子　ううん、全然。（たかをに）ね。

たかを　うん。

弥太郎　え

いつの間にか、同じテーブルにたかをがいた。

たかを　はじめまして、たかをちゃんです。

弥太郎　あ、どうも、初めまして。弥太郎と申します。美和子さんにはお世話になってます。

美和子　そんな、お世話なんてしてないけど。オットです。

たかを　あ、オットというか、たかをちゃんです。

弥太郎　え

美和子　気にしないで、ちょっと変わった人なの。

弥太郎　あー

美和子　というか、どうも人が変わったようなの。

弥太郎　え？

美和子　うん、おかしいんだけど、こんな顔じゃなかったと思うんだよね。

弥太郎　別人…なんちゃうんかな。

美和子　でもこの顔しか思い出せないの。それに夢に出てくるのは毎回この人なのね。

たかを　たかをちゃんです。

弥太郎　たかをちゃん言うてますけど。

美和子　うん、でもね、オットなの。そういう感じがする。夢って、そういうとこあるでしょう？

たかを　それはどうだろうか。

弥太郎　（なんやコイツ）え、旦那さんの名前は、たかをさんやったんですか？　というか旦那さん、どうしはったんですか？

美和子　消えちゃった。

弥太郎　え

美和子　ある日ね、いなくなっちゃったの。蒸発？　それでもう、三年。

弥太郎　あー……。

間

美和子　名前なんていうのは、まあ人間には分かり切らないものだから。

弥太郎　ん？

美和子　だから、仮のものぐらいに捉えておけばいいんじゃないかしら。
弥太郎　人間にはって、どういうことすか？
美和子　んーなんか聖書の中の人名って、一つひとつ、神様から見た役割みたいな名前が付けられてるんだって。
弥太郎　はあ。
美和子　「敵対者」とか「神を告発する者」なんて名前もあるらしくてね、でもその人は、すっごく神様のこと信じてるの。
弥太郎　大変すね（？）
美和子　ままならないね。
弥太郎　ほんまですね。
美和子　運命って本当に、過酷……。
弥太郎　……。
美和子　でも仕方ないよね！　その聖書を記述してるのは結局、人間なわけだし。
弥太郎　……よく分かんないっす。
美和子　この人の顔、強いじゃない？
弥太郎　（たかをちゃん？）
美和子　たかをちゃんって名前も、何なんだって感じだよね。
たかを　そんなこと言われましても。
弥太郎　意味わからん（笑）
美和子　そうなの、ホント意味わかんないなーと思って、ちょっと受け止め切れなくなってきて。
弥太郎　受け止めなくていいっすよ。
美和子　無理だよ、そこは自分で選べないもん。
弥太郎　（若干スピリチュアルの気配を感じて、ちょっとだけ気持ち悪いなと思う）
美和子　や、別にそんな特殊なことを言ってるわけじゃなくて。望んでなくても夢に出てきちゃうんだもん。
たかを　あの、なんだか僕は責められてる感じを感じてるんですけど、僕はずっと普通にいるだけで、あなた（弥太郎）にも初めて会ったし。
美和子　責めてないよ。
たかを　そうですか。
美和子　とは言え私もだんだんちょっと耐えられなくなってきて、だからもしよかったら弥太郎くんに、一緒に受け止めてもらえたら、嬉しい。
弥太郎　……。
たかを　それは難しいんじゃないかな。
美和子　どうだろうか？

男たち

金田　て言われてもな。

金田、いつの間にか来て、三人の様子を見ていた。

弥太郎　え？　あ、はい。え？
金田　やー悪い悪い、おれもさすがにこんな朝早くから呼び出すのはちょっとアレかなと思ったんだけど、でもお前、出るからさ。
弥太郎　や、そら電話かかってきたら出ますよ。
金田　にしたって偉くね？　いつもこんな早く起きてんの？
弥太郎　いや言うて九時やったら普通起きてるんちゃいます？
金田　ハー……「普通」。（と言って、弥太郎を指さす）
弥太郎　なんすか（笑）

金田　え、でもさ、ぶっちゃけどう思った？
弥太郎　え、何がすか？
金田　「一緒に受け止めてもらえたら嬉しい」っておれに言われて、お前はどう思ったの？（と言って、美和子を指さす）
弥太郎　や、「おれ」っつーか女の人ですよね？
金田　うん、でも夢の中ではおれがその女だから。
弥太郎　……きっしょ！
金田　え、なんで？
弥太郎　え、だってその金田さんであるところの女の人に、おれが迫っていくっていう夢やったわけっすよね？
金田　そう。でも大丈夫だよ、おれだけど女だったから。
弥太郎　いやでも、金田さんがそういう夢を見たんすよね。そこがヤバイ。
金田　そうかな。
弥太郎　うん、色々おかしいけど、そこにいっちゃん引きました。
金田　えーでも夢って、おれが見てるっていうよりは、なんつーの、もっとこう大きなものから見させられてるっていう感じしない？大きなものって言ってもまあ、それも自分でもある、みたいな感じなんだけど。
弥太郎　なんすかそれ。
金田　んー、つってもそんな、今言った以上はわかんないけど。
弥太郎　はあ。

（同時進行で）

美和子　たかをちゃん。
たかを　はい。
美和子　喉かわかない？　あったかいお茶でももらおうか。
たかを　……そうしない方がいいのです。（と言って、去ってしまう）

美和子、取り残される。

金田　あでも、これはおれの体験談なんだけど、言葉、というかあれは何なんだろう、息づかいというか、霊の気配みたいなものが、かすかに（忍び寄るように聞こえてきたことがあって、）
弥太郎　（遮って）え、怖い話すか。
金田　や、別に怖くはない。で、そいつが忍び寄るように聞こえてきたことがあって、ヤバイヤバイヤバイって。もう夜も更けてて、普段ならぐっすり眠ってるはずなんだけど、風がふぅーっと（顔のあたりを）かすめて、あ。そこに、姿を見分けることは出来ないんだけど、ただ、ひとつの、形があって、（一瞬の沈黙ののち）「人が神より正しくありえようか。造り主より清くありえようか」
弥太郎　なんすかそれ！
金田　いやもう恐ろし過ぎて骨が軋んでさ、それで実感した。人間は、本当に小さい。所詮土くれから生まれたおれらなんて、どう足掻いたって、ただ脆く崩れる命を死ぬだけなんだな、って。
弥太郎　えー……。
金田　ま、でもそれはよくて。お前はさ、「一緒に受け止めてもらえたら嬉しい」って言われて、どうなの？
弥太郎　え、いやっすね。
金田　いやいやいや、その夢の女とかじゃなくて、おれだよ？
弥太郎　いやっす。
金田　うんまあ聞け。今おれらは、ウチの妹の家に向かってて、
弥太郎　え
金田　今日おれはヤツと会って話す用があんのね。でも正直おれは気が

重いというか、受け止め切れない気しかしない。だからお前を呼んだ。

弥太郎　え、なんで？　意味わからんくないすか？

金田　いや、おれいつも言ってんじゃん、年長者を敬えって。

弥太郎　や、金田さんのことはリスペクトっすけど、おれがいても何も変わらんて。

金田　ところがそう言ってる間にもう着いた。希帆ーーーー！（ドアを叩く、ちゃちなマイム）

弥太郎　え、ここ……？

金田　希帆ーーーー！　おれだけど。友達も一緒だから開けてーーー！

弥太郎　え、この家住んでんすか？　ヤバないすか？

金田　ヤバいよ。言っとくけど、中もっとヤバいから。希帆ーーー！

弥太郎　えー……

金田　お前も叩いて。希帆ーーー！

弥太郎　（叩くポーズをしながら）キホさん～……！

二人、ドアを乱打するマイムのまま希帆に向かって直進し、そのまま希帆を通り過ぎ、太郎冠者・次郎冠者のように去っていく。

朝　3

希帆　（また朝が来た）

希帆、呆けている。カーテン越しに射す朝の光を見ている。しばらくして、のそのそと動き出し、空いた缶に酒の残りがないか飲んでみる。でも中身はない。

タバコを吸いたいと思うが、それもない。

希帆　（今日って何曜日なんだろう）

希帆　……死にたい……。

大家さん

美和子、希帆のいる部屋に向かって、話しかける。この部屋の借主は原という男で、希帆はその部屋に転がり込んでいる。

美和子　こんにちはー。原さん、いらっしゃいますかー？

希帆　……。

美和子　原さーん、牧田ですー。いらっしゃいますよねー？　お家賃をいただきに伺ったんですけどー。

希帆　……。

美和子　ねぇ、そうやってね、黙っててもいるのは分かってるんですよ。毎回無視されてますけどね、今日はもうそれじゃ済まされませんから。

希帆　……。

美和子　原さん、きっとご事情もおありなんでしょうし、よかったらお話ししていただけないかしら？　もしかしたら、私でお力になれることもあるかもしれないと思うんです。でもそうやって、ずーっとただだんまりっていうんじゃあんまり、こちらとしても、困ってしまうんですね。

希帆　……。

ヨブ呼んでるよ

美和子　私は今、少しでもあなたの、というか私たちそれぞれの、未来を明るく出来ないかな、そのために出来ることをしたいなっていう思いで、あなたにお話ししてるんですね。私の声、聞こえてますよね？　聞こえててこれだけ無視し続けるって、それはそれで大変なエネルギーのいることだと思うんです。それってたぶん原さんにとっても良くないことだし、何ならこんなネガティブな調子で言葉を発することなんて、私にとっても不幸です。でもそうさせてるのは、原さんなんですね。だって行き会ってしまった以上私としては、誰であっても切り捨てることなんて出来ませんから。だから今、やっぱり原さんにまず一言答えて欲しいっていうのが、あるんです。だってそうじゃないと納得いかない。人を一番参らせて、死に至らしめることは何ですか？　それは、無関心なんですね。私はここにいる。それなのに、いてもいなくても関係ないものとして扱われる。それって存在に対する最大の否定じゃないですか？　ずっと考えてます。どうして突然あの人は、理由もなく私の前からいなくなってしまったのか？　せめて理由があれば、まだ納得できるじゃないですか。私のことが嫌になったにしても、傷付いても構わないから、きちんと話して欲しかった。人間なんだから、言葉を話せばいいじゃないですか。そりゃ、こちらも責めたり暴れたり抵抗したりしたでしょうけど、それが愛情ってものでしょう？　だから原さんも、答えてください。私の言ってること、そんなに難しいことじゃないですよね？　もちろん納得いかない部分がもしあれば、それはそれで言っていただいて構わないし、こちらとしてもいくらでも、お応えする準備はあるんです。

希帆　……。

美和子、ため息をついて、強制退去通知を投函しようとしたところで、ドアが開いていることに気付く。

美和子　あれ、原さん？　いらっしゃいます……？　え、臭！！！

裕福な悪人

弥太郎が、再びカットインしてくる。えんえん無対象に独り言を言っているように見えるが、イヤホンでオンナに電話している。

弥太郎　ってもう、ドア開けた瞬間ブワ！　臭い来て、鼻と目、ツーン！　なって、え？　や、盛ってへん盛ってへんて！　あれはマージでやばい。だって臭いが目に来るとか普通ないやん？　かなり死ねんで。まぁ世話んなってる人の妹やからあんまし悪く言えんけど、ショーゲキやった。畳も腐ってんちゃうかな、臭いし汚いし、歩くと足の裏なんかちょっとくっつくねん。いや人間ここまで落ちれるモンなんやなっつーか。斬新やったわ（笑）え？　は？　なんでサンマ？　あー…煙？　も目に沁みるジャーンて意味わからんわアホ（笑）え、サンマ好きなん？　ほな今度食べ行こ。んー？　あーそおね、人間、処理できんことに遭うと笑てまうもんなのかも分からんね。や、でもな、実際キツかったで。つーかエグイ。もう体ボーン！　やねん。や、ほんまほんま。ボーンデーン！　つー感じ。で、じぃっとして。顔もな、たぶん元はけっこう美人やったと思うねんけど、ああなるとかえって悲惨やね。デブとむくみでクロマティか！　っちゅー。や、ごめんごめん。今のは分からんくてええねん。（去る）

ヨブ呼んでるよ

大家さん・続

美和子　え、え、ちょっと何ですか、あなた？　原さんは？

希帆　（美和子を見るが、無視）

美和子　すみません、あの、こちらのお部屋は原さんにお貸ししてるんですね。え、で、ちょっとあなたは、どちら様ですか？

希帆、美和子をジロジロ観察して、

希帆　……あんた、原となんかあったの？

美和子　え？　…なんかって、何ですか？

希帆　知らないけど。

美和子　……。

希帆　あいつしばらくずっと帰って来てないよ。

美和子　（ショックの息が洩れる）

希帆　……。

美和子　え、ずっと、いらしたんですか？

希帆　…はい。

間

美和子　……それで、あなたは？

希帆　金田です。

美和子　原さんとは、そういう……？

希帆　……そういうって、何？

美和子　あ、いえ。あの一応今日は、お家賃をいただきたくて、ですね。ってまあずっといらしたんですもんね。今までもずっと中で聞かれてたなら、うん。

希帆　……。

美和子　（笑顔）

希帆　……。

美和子　あ、でも一応もう一度、たぶんご説明した方がいいですかね。えー、こちらのお部屋のお家賃が、今月まででもう二ヶ月、滞納になってしまっている状況なんですね。というのは、金田さんは……？

希帆　…知ってます。

美和子　あ、はい。

希帆　……。

美和子　あ、っと、えーそれで、どうされますかね？

希帆　……。

美和子　……。

希帆　……。

美和子　こちらとしては、出来れば、出来るだけ早くお支払いいただけると有難いなぁ…というのが、あるんですけど。

希帆　……そうしない方がいいんですけど。

美和子　え？

希帆　……。

美和子　あ、ごめんなさい、よく聞き取れなくて。

希帆　……そうしない方が、いいです。

美和子　……。

希帆　……。

美和子　え、それはどういう？

希帆　……。

美和子　あのですね金田さん、こちらのお部屋は本当はお貸ししているのは原さんなので、他の方がお住まいになっているというのは、契約違反になるんですね。

希帆　……。

美和子　まあただ、この状況を全く把握できていなかったことはこちらの至らなかった部分でもあると思うので、そこはいいです。とりあえず。

希帆　……。

美和子　（希帆が無反応を貫いているので、初めてかなり無遠慮に部屋を見回して、ため息をつく）この部屋も、どうなさるおつもりですか？

希帆　……どう、と言われても。

美和子　（カチンとくる）え？

希帆　……。

美和子　金田さん、あなたのその態度、ちょっとおかしくないですか！？この部屋は私の、財産なんですね。祖母から受け継いで、こんな古くて汚いアパートですけど、私にとっては大切な生きる糧なんです。それをねあなた、こんなにして……！

希帆　……。

美和子　ま、まず一言謝罪とか、ないんですかッ！？

希帆　……（美和子を見る）。

美和子　え？　……ちょっと私、理解できないんですけど、ここまで…（部屋だけでなく、おそらく希帆の体型などについても言っている）なってしまう途中のところで、何か、

希帆　「わたしの生まれた日は消えうせよ。その日、わたしをみごもる腹の戸が閉ざされなかった、その夜よ。あるいはなぜ、わたしは母の胎で死んでしまわなかったのか。せめて、生まれてすぐに息絶えなかったのか。なぜ、膝があってわたしを抱き、乳房があって乳を飲ませた。なぜわたしは、葬り去られた流産の子、光を見ぬ子とならなかった」

美和子　……。

希帆　原、たぶんもう戻って来ませんよ。

美和子　え

希帆　次やったら終わりって言われてたのに、また（手首）切っちゃったから。

美和子　……。

希帆　タバコ、持ってないですよね。

美和子　ええ。

希帆　早く、日暮れねぇかな。

美和子　……あの、立ち入ったことを伺いますけど、金田さん今、生活はどうされてるんですか？　相当困ってらっしゃいますよね？

希帆　……生活？

美和子　はい。何か、私でお力になれることがあればと思って。

希帆　ないですね。

美和子　え

希帆　放っておいてください。私、生きてる意味ないんで。

美和子　そんな、

希帆　でも夜は夜で長いんですよね。寝られないし。

美和子　（やたらうなずいている）分かります。

希帆　は？

美和子　自分がこの世でひとりぼっちだと感じる暗闇、本当に苦しいですね。私もそうでした。でももう怯えなくていいんです。金田さんが神に向かって手を伸べるなら、人生は真昼より明るくなる。人間は、未来に希望があるからこそ安心して生きられるんヨブ呼んでるよ

です。

希帆　……。

美和子　大丈夫。生活を立て直していきましょう、一緒に。

希帆　……いいです。

美和子　どうして？　ねぇ金田さん、沼でもないところでパピルスが育ちますか？　無理ですよね。今のあなたは、そういう状態なんです。では人間にとって、水とは何でしょう？　それは神の慈悲です。あまりに傷付き乾いた人は、自分が水を求めていることすら、分からなくなってしまいます。今のあなたがまさにそれです。

希帆　いい加減にしてもらえませんか、気色悪い。

美和子　可哀相に、たくさん傷付いてきたんでしょうね。でもそういうお仕事って、たくさんおカネがもらえるんでしょう？

希帆　は？

美和子　悪は口に甘いもの。でも吐き出さないと、パンはコブラの毒に変わる。その腹は満足することを知らず、欲望から逃れられず、食い尽して、何も残さない。……せめて少しでも貯えとけばよかったのに。

希帆　大家さん……なんか怖いんですか？

美和子　え？

希帆　こういう人間がいるのが、許せないですか？　見たくないですか？　やっぱ死んだ方がいいですか？

美和子　いいえ。

希帆　え、でも怖いですよね？　私とあなた、全然違う生存仕方してる感じしますもんね。私、あなたのこと怖いですよ。っていうか、気持ち悪い。

美和子　……。

希帆　もし私があなたの立場だったら、そんなこと言うのかな？　ってさっきから、考えてたんですけど、言わないよなと思いました。でも分かんないよな、とも思いました。ていうのはつまり、ホントのホントにその人の立場になってみないと、きっと結局ホントのところは分かんないって意味なんですけど。え、でもそうですかね？

美和子　え？

希帆　分かんないですか、私の心？　ほんとに？

美和子　……。

希帆　あなたたち同様、わたしにも心があって、あなたたちに劣ってるわけじゃないんです。でも何故か、慰めるフリして苦しめてきますね。「我々が彼を追い詰めたりするだろうか」とあなたたちは言う。この有様の根源が、わたし自身にあるとあなたたちは言う。その空しい言葉で、どうやってわたしを慰めてくれるんですか？

たかをちゃん2

希帆　「人殺しは夜明け前に起き、貧しい者、乏しい者を殺し、夜になれば盗みを働く。姦淫する者の目は、夕暮れを待ち、だれにも見られないように、と言って顔を覆う。暗黒に紛れて家々に忍び入り、日中は閉じこもって、光を避ける。このような者には、朝が死の闇だ。朝を破滅の死の闇と認めているのだ」

美和子を放置して、希帆は夢の中に逃げ込む。

たかをがいる。

希帆　たかをちゃん、たかをちゃんは神っていると思う？

たかを　イナイ。
希帆　なんで？
たかを　うーん、いたら僕もう外に出てると思う。
希帆　外？
たかを　うん。
希帆　え、どういう意味？　じゃあたかをちゃんどこにいんの？
たかを　大田区。
希帆　大田区？（笑）たかをちゃん大田区にいんの？（笑）
たかを　うん。大田区で、僕泣いてばかりいるよ。
希帆　たかをちゃん泣いてんの？　なんでよ？　大田区に何があんの？
たかを　？　大田区には何もないよ。
希帆　あ、そうなんだ。
たかを　でも家がある。
希帆　え、たかをちゃん家？
たかを　そう。たかをちゃんとお父さんとお母さんがいる。
希帆　あれ、妹は？
たかを　妹は結婚したって（伝聞）。
希帆　あ、そうなんだね。え、で？　なんで泣いてんの？
たかを　お母さん死にそうなもんで。
希帆　え、病気！？
たかを　分かんないけどたぶん違うと思う。ただ死にそう。
希帆　え、どういうこと？
たかを　お母さんもう年だからね。
希帆　あー、んん？（？）おいくつなの？
たかを　ハチジュ。
希帆　あーけっこういってんね！
たかを　うん、僕どうしていいか分からなくて泣いてばかりいるよ。
希帆　それはもう聞いたけど、そっかー。お母さん亡くなったら、悲しいね。
たかを　ううん。それは別に。
希帆　え？
たかを　それはいいんだけど僕、お母さん死んだら、外出ないといけなくなると思うんだよね。
希帆　それさっきも言ってたけど、どういうこと？
たかを　僕もう三十年外出てないもんで。
希帆　え！？
たかを　そうそう。でもお母さん死んだら、たぶん外出られると思うんだよね。
希帆　え、待ってたかをちゃん、何歳なの？
たかを　ゴジューロク。
希帆　えーーー！！！
たかを　そうそう。
希帆　え、三十年外、出てないの？
たかを　うん。お母さんが出るなって。
希帆　え
たかを　そうそう。
希帆　…や、そうそうじゃなくて、
たかを　うーん、学校は楽しかったんだけどさぁ、僕お仕事はあんまシールだったんだよなぁ。
希帆　あんまシール？
たかを　え、知らない？　物事があんまし良くないときに貼るシール。
希帆　うん知らない。
たかを　んーとねぇ、希帆ちゃんの服、あんまシールだね。
希帆　うるせーな。

たかを　悪い言葉使いもあんまシールだよ。
希帆　シールじゃないじゃん。
たかを　シールシール。

と言って、たかを、希帆に架空のあんまシールを貼ってくる。それがなんかちょっと、性的な気配を含んでいる感じがして、希帆は初めてたかをに少し生理的嫌悪感を覚えるが、何となく、相手がたかをだと言えない。

希帆　えー？（笑）
たかを　たかをちゃん、あんまシールが百になってお仕事辞めたんだ。
希帆　へー（？）なんの仕事？
たかを　なんか、ホームページを作ったり…？（と言いながら、たかをちゃんはなんか希帆にそよっと接近している）
希帆　すごいじゃん！
たかを　うん、けっこうね。でもずっと一人で喋ってる人とか、ちょっと変わった人が多くてさ。
希帆　へえ～！　たかをちゃん！　近い！（笑）え、でもたかをちゃんがそう思うって、相当だね。
たかを　うん、相当だったよ。僕あそこ、やだったな。それで、僕ほんとは外出たかったけど、お母さんが家にいた方がいいって。
希帆　ん？　あ、そこを辞めてからってこと？
たかを　うん。でもお母さん死んだらさぁ、
希帆　……たかをちゃん、外、出たい？
たかを　うーーん、分かんない。でも僕、このままでいいのかなぁって思うんだよね。
希帆　うん。
たかを　（大きなため息）妹に会いたい。
希帆　全然会ってないの？
たかを　会ってない。結婚したからね。
希帆　そっか。
たかを　うん。妹がいなくて、寂しい。小さい頃からずっと、妹が僕んとこ遊びに来てくれてたから。今は誰も来てくれない。
希帆　たかを！　アタイがいるじゃねぇか。
たかを　でもこれ結局夢じゃん。
希帆　がーん。
たかを　お母さん、いつもとってもイライラしてて、僕怒鳴られるのが怖くて、何かあるといつも必ず僕が怒られるんだけど、それは妹が悪いときでもそうなんだけど、でも僕、そうだよなぁと思ってた。だって妹はホントに可愛いし、優しくて、僕すごくアイしてたんだけど、でも妹はアイしたらだめなんだって。お母さんが妹に叱ってる声が聞こえて、僕は、なんだよお母さん、いつもみたいに僕のこと叱ればいいのに、お母さんは疲れてるんだから、そうなっちゃうのはしょうがないんだから、僕もう慣れてて平気だし妹より僕のこと叱ればいいのに。ホントいやんなっちゃうなあ。お母さんが泣くのも大きい声出すのももうホント、いやんなっちゃうなあ。それより早く、妹戻って来ないかなあ。と思った。でも来なかった。「あの子は結婚したからね」ってお母さんが言って。ね。結婚したならしょうがないんだよね。寂しいけれど。でもそっから僕、ずっと寂しいよ。

たかを、穴に消える。
動物的なたかをの無邪気さを、希帆は受け止め切れない。

夢が終わって、現実が押し入ってくる。
金田と弥太郎、希帆の家にやって来る。何度も何度も、同じことが繰り返されている。
残されていた美和子は、ずっと希帆がひとりで見てきた風景を見る。

金田　希帆ーーーー！　おれだけど。友達も一緒だから開けてーーー！
弥太郎　え、この家住んでんすか？　ヤバないすか？
金田　ヤバいよ。言っとくけど、中もっとヤバいから。希帆ーーー！
弥太郎　えー……
金田　お前も叩いて。希帆ーーー！
弥太郎　（叩くポーズをしながら）キホさん～……！

二人、そのまま通り過ぎ、追って美和子も去る。金田だけ残る。
観客をまっすぐに見据えて座っている希帆と、その希帆をねっちりした視線で見つめている金田。

挿入

ヨブは語り尽くした（けれどわたしたちは？）

※このシーンは、全ての言葉が引用で構成される。前後のシーンとまるで違った文体と質感を持ち、容易に脈絡付けることの出来ない言葉の連なりが突如ガチャンと、理不尽に、劇の流れに挿入される。
※劇を上演する者は、このシーンのための言葉（語る言葉を持たない者の言葉）を探すこと。

金田と希帆は、幼い頃に親から虐待されていた。金田と希帆の間には、性的関係が存在した。金田と希帆の暮らす地域にも、学校にも、家庭にも、暴力があふれ、セックスがあふれ、貧しさがあふれ、それらは互いに連関している。因果関係を指摘するのは容易いかもしれない。でもそれが何の役に立つだろう？　絡まり合ったその連鎖を、どこから切断し始められるだろう？　旧約聖書のヨブは、よかった。彼は恵まれた暮らしを送ったことがあったから、自分の受難を認識出来た。その不当さを訴える言葉も彼は持ち得た。訴える相手の神様もいた。声なき人の声、言葉なき人の言葉は、どのようにこの世界に出現し得るだろう？　それは現実には、現れ得ないかもしれない。でも虚構の中では、想像できる。全ての出来事が、私たちの元に届くわけではない。何かしら有用な／消費可能な／楽しめる情報だけが、受け取り可能なフォーマットにあて込まれて／バイアスのかけられた状態で、届けられる。

しかしこのシーンで希帆は、受け取り不可能な言葉を語る。それは彼女自身の言葉ではなく、外部からの引用の言葉の継ぎはぎだが（なぜなら彼女は言葉を持っていないから）、それでも人間は、その理解不能な言葉を理解しないまま、了解できる。

それは主張でなく、糾弾でなく、問題解決を志向するものでもない。ただ出来事そのものと一致した、歌のような言葉。

その言葉に触れて、金田が立ち尽くしている。

4

借金取り

弥太郎、やって来る。

弥太郎　金田さん、おれもあんまこういうこと言いたないんすけど、

金田　分かってる。悪いと思ってる。
弥太郎　いや、ちゃうんすよ。おれは全然いいんすけど、金田さん自身がけっこう負担になってきてるんちゃうかな思て。金利も安い言うてもまあ、積み重なったらそれなりやないすか。
金田　や、ごめん今月子供の新学期でちょっと遅れてるけど、
弥太郎　あ、それは全然！　ええて言うてるやないすか。ちゃうくて、おれが言いたいんは妹さんのことっす。
金田　ああ。
弥太郎　どうなんすか、正味な話？　前回からなんか方針立ちました？
金田　……いや。
弥太郎　やんなあ。部外者がこんなん言うたら悪いけど、こら光が見えん思いましたわ。や、おれ金田さんにカネ貸すんは、いっくらでも言うて言うてーって感じなんすけど、正直ね、キホさん？に投資いうんはちょっとねー、
金田　や、投資っつーかまあ、ないと死ぬから。
弥太郎　ほんまに？
金田　え？
弥太郎　ほんまにないと死にます？　甘えてるんちゃうん？
金田　え……や、うん、
弥太郎　キツいこと言いますよ。金田さん、どっかで気持ちようなってんちゃうやろか。
金田　は？
弥太郎　や、ごめんなさい。これはたぶん、おれがカラッカラの人間やから分からんだけかもしれないんすけど、
金田　……。
弥太郎　おれはね、人間てキホン、何かしらのメリットがないと動かんもんやと思うてるんです。まーメリットっちゅーとやらしい感じがするかもしれんけど、意味って言うてもオッケー。無意識やったとしても絶対、人の行動には意味がある。でー、その考えからすると金田さんのその妹さんへの思いって、アツいなと思いますけど、逆に言うたら現実見てやっつーか
金田　あ？
弥太郎　すません、表現間違えました。や、でもね、おれ悔しいんす。金田さん最近、会うと毎回こうやって謝りはるでしょ。いいんすよ！　っていくら言うたところで、でもやっぱそらそうなるよなとも思うんです。でもね、やっぱ嫌なんすよ。悔しいんすよそうやって、金田さんがクソくだらねー現実に足取られてつまんなくなってくのが。
金田　お前さっきから聞いてりゃ
弥太郎　金田さん、いっつも妹さんのことかばうけど、実際どう思てます？　「大変なおれ」ポジションキープして、思考停止してるんちゃいますか？
金田　……。
弥太郎　妹さんに執着してるんは金田さんの方なんちゃいますか？　腹括って縁切ったらどうすか？　てか毎回お貸ししてる分、ほんまに妹さんに渡ってます？
金田　！（キレた）
弥太郎　それっす金田さん！
金田　は？
弥太郎　今のその目、やばかったっす。やっぱカッコええ！
金田　……はあ？
弥太郎　いやおれ金田さんのこと、まじリスペクトなんすね！　でもそれって、やっぱ出会ったときの鮮烈な印象がデカくって。覚えてます？　バングース襲撃事変。うわ、なんやこのキレッキレヨブ呼んでるよ

の人！　思いましたもん。

金田　……。

弥太郎　胸糞悪いこと言うてすいません。でもおれほんまに、ほんまに心配なんす金田さんのこと。昔の生き生きしてた金田さんに戻って欲しくて。

金田　……お前意味わかんないよ。

弥太郎　はい。

デッドボール

金田　……まー。でも、そうね。正直いま、手詰まり感のまま日々のことをこなしてるってのは、ある。…うん。

弥太郎　はい。でもおれはほんまに、金田さんさえその気になれば世界も狙える思てるんす。

金田　……うん。そうね、腹括ってね。

弥太郎　はい。

金田　…や、ありがとう。ちょっと、考えるわ。

間

弥太郎　まーまー、辛気臭い話はこのくらいにして。今日は金田さんの厄落としっつーことで、どーすかこの後？　おれオゴりますし。

金田　や、悪いよ。

弥太郎　いや行きましょ行きましょ。アツくなってつい失礼なことも言うてもたし、あともう一人、友達も来るんで。

金田　あ、そうなんだ。

弥太郎　はい。

金田　え、飲み？

弥太郎　や、ヘルスどうすか？

金田　あ、そっちかー…。いや～おれはじゃあいいかなー。

弥太郎　えー行きましょうよ！

金田　いや、嫁いるし。

弥太郎　え！？

金田　……子供もいるし。

弥太郎　それマジで言うてます？　金田さん結婚してから全く遊んでへんの！？

金田　……つーかまあ、カネないし。

弥太郎　いやいや、やったら尚更オゴりますって！　だいじょぶっす！今日行こうとしてる場所、マジでめっちゃ安いんで！

金田　…そうなんだ。

弥太郎　はい、七十分一万なんで。

金田　安！　え、大丈夫なのそれ？（笑）

弥太郎　はい、おれもう何回も行ってるんで。

金田　……じゃ、行こうかな。悪いね。

弥太郎　いえいえ。あ、じゃあこれ。

金田　え？　何？

弥太郎　元気が出るドリンクっす。

金田　え、そんな？

弥太郎　はい。今日行くとこちょっと特殊なんで。

金田　え、待って、どういう意味？　怖いんだけど。

弥太郎　まーまー行けば分かるんで。

弥太郎と金田、いい加減な歩行で、店に着く。さりげなくたかをも集合している。そこは、どんな女性が面接に来ても全員落とさず受

ヨブ呼んでるよ

け入れる、伝説のヘルス。

三人　（掲示された選手＝嬢たちの写真を見て）うわー！

金田　あれ？

弥太郎　ああ。

たかを　どうも初めまして。たかをちゃんです。

金田　あ…金田です。どうも。え？　たかを…？

たかを　たかをちゃんです。

金田　あ。

弥太郎　ちょっと変わってるけどオモロイやつなんで。

たかを　僕今日が初めてなんですけど、よろしくお願いいたします！

金田　あ、え？（どういう意味で？）

弥太郎　どうしよっかなー。お、今日ミゲルおるやん。

金田　（ミゲルを確認して）おお。え、これさ…

弥太郎　はい？

金田　全員こういう感じ？

弥太郎　そうっすね。基本デブとババアっすね。今日いるか分からんけど、最年長で七十三とかやったかな。若くて顔がキレイめの子はほぼメンタルやばいと思った方がいいっす。

金田　あー……。

弥太郎　え、無理っすか？

金田　あ、いや、そんなことないんだけど。ただ予想してなかったから。

弥太郎　ま、そうっすよね。

金田　うん。……え、彼はいいのかな？　なんか今日初めてとかって。

弥太郎　あ、たかをちゃん、どう？　この店でええ？

たかを　うん、いいよー。

弥太郎　ええみたいすわ。

金田　……うん。え、お前よく来んの？

弥太郎　「よく」ってほどじゃないですけど、まー六、七回すかね。

金田　すげー来てんじゃん！

弥太郎　まあ、怖いものみたさっつーか。コイツらマジやばいと思うと、おれなんかまだまだ大丈夫やなと思うっつーか。

金田　お前サイテーだな。

弥太郎　え、でも思いません？

金田　え

弥太郎　やし、ヤるんすよそいつと？

金田　んーーー。え、お前できんの？

弥太郎　やからさっきドリンク渡したやないすか！

金田　いやーーそういうもんじゃないでしょ（笑）

弥太郎　や、まあおれも、打率五割切るくらいっす。でもできないと正直かなりヘコむじゃないすか。

金田　うん、まあそうだね。

弥太郎　でもそういうときのヤツらの対応見てると、凄いすよ。

金田　え、優しいとかってこと？

弥太郎　（それ）もあるけど、なんつーんやろ、上手くいかんことが人生のデフォルトになってるいうんか、そういう受け止め感…てか諦め？

金田　諦めかよ（笑）

弥太郎　え、諦め大事ちゃいます？

金田　…まーね（？）

弥太郎　この人に比べたら、「コイツやばい」とか言うてるおれの方がなんぼかクズでゴミ虫みたいなもんやんなあと再確認できるっつーか。

金田　したくねー（笑）

ヨブ呼んでるよ

弥太郎　でも実際ゴミやし。あと、できたときはかなりの達成感になる。
金田　あー……。
たかを　弥太郎くん。
弥太郎　ん？
たかを　決められなくて困っています。
弥太郎　おー何？　今、どれが気になってんの？
たかを　（指差す）
弥太郎　あー広沢とマグワイアか～。たかをちゃん、渋いとこ攻めてくんなあ。
たかを　そうですか。
弥太郎　んーマグワイアは分からんけど顔はそこそこっぽいな。コイツの顔と広沢の乳と、取って混ぜてもう一回造り直せたらよかってんけどな。
たかを　はい…。
弥太郎　じゃーおれマグワイアいくから、たかをちゃん広沢いったら？
たかを　うーん。
弥太郎　金田さんは、どうすか？
金田　うーん、いやなかなかね、難しいよね。
弥太郎　まーおれのオゴりなんで、ものは試しと思って。
金田　そうねー。
たかを　え、今日は弥太郎くんのオゴりですか？
弥太郎　おーそやで。
たかを　そしたら延長してもいいですか？
弥太郎　おー、したらええ（笑）
金田　たかをちゃん、強いなー（笑）
たかを　はい。
弥太郎　お、ゴメス復帰してるやん。
金田　ゴメス？
弥太郎　はい、しばらく休んでて。
金田　詳しいな（笑）
弥太郎　や、実はおれが指名した後から来なくなったから、おれのせいかと思ってて。よかったー
金田　えー？　お前何してんだよ。
弥太郎　や、普通ですって。でもコイツも体はマズイけど、顔はかなりキレイっつーか、まあ鼻から下隠せばけっこうイケるんすわ。
金田　（他の人を見ながら話半分に聞いている）へー
弥太郎　金田さん、どうすか？
たかを　（弥太郎の指した写真を見て）あ、希帆ちゃんだ！
金田　え？
弥太郎　え、ゴメス？　何、お前友達なん？　マジで？（笑）
たかを　うん、僕この人にしまーす。

たかをと金田、走り去る。

弥太郎　え、金田さん？

金田、見えないところでえずいている。

弥太郎　……なんや、全然腹括れてないやん。ナイーブやな。（去る）

歯をみがいてください

たかを、希帆の部屋に飛び込んでくる。

たかを　希帆ちゃん！
希帆　え？　……え、たかをちゃん！？
たかを　わあーホントにめっちゃ太ってる！

たかを、ずんずん近付いてきて、希帆の現実の顔をじぃーーーっと見てくる。

希帆　（そらす）
たかを　（顔の向きを直して）そんなにブスかなぁ？（と言って、希帆の顔の鼻から下を手で覆って隠してみる）
希帆　ちょっと、
たかを　（離して）弥太郎くんがこうしたらいいよって言ったんだけど。あ、今日は友達と一緒に来ました。弥太郎くんがオゴってくれるって。延長もしていいって言ってくれたから、百三十分、お願いいたします！
希帆　……。
たかを　あ、そうだ希帆ちゃん！　外の名前、間違ってた！　ゴメスになってたよ（笑）
希帆　（うなずく）
たかを　え、大丈夫？　他の人が間違えるかも。（すごく気にしている）
希帆　大丈夫。
たかを　（まだ気にしている）
希帆　他の人、来ないから。
たかを　……うん。そうか。
希帆　たかをちゃん、よく喋るね。
たかを　え？　あ～、うん。楽しみにしてたからちょっとテンション上がっちゃってるかもしんない。
希帆　そうなんだ。
たかを　うん、そう。あ！　ああ。ヤバイどうしよう、ああ。（ウロウロしだす）
希帆　何？
たかを　あの、どうしよう僕、歯みがいてくるの忘れてしまった。弥太郎くんにみがいてこいよって言われてたんだけど。
希帆　大丈夫だよ。
たかを　え？　あ、でももしかしたら弥太郎くんが持ってるかもしんないから僕ちょっと、聞いてくる！
希帆　（たかをがずっと挙動不審なので、動きを止めて手を握って）たかをちゃん。大丈夫だから、ちょっと落ち着いて。
たかを　……。
希帆　落ち着いて。ください。Please.
たかを　それーーー！（笑）
希帆　（静かに）
たかを　！

間

希帆　……どう？
たかを　……うん、落ち着いた。
希帆　（歯ぶらしを渡して）はい。
たかを　あ、歯ぶらし。ありがとう。
希帆　それ三百円だから。
たかを　あ、うん。後で言っておく。
希帆　うん。

希帆も自分の歯ぶらしを出して、歯みがきする。
たかを、再びテンションが上がってきて、歯みがきの途中でハグしたり、チューしたりする。

希帆　たかをちゃん、歯、みがいて。
たかを　希帆ちゃん。（チュ）
希帆　たかをちゃん、私の名前、ゴメスだから。
たかを　なんで？
希帆　（答えず、にらむ）
たかを　分かった。ゴメスちゃん。

たかをちゃんがまとわりついているまま、希帆は歯をみがき続ける。

終わり

【引用】

・P.7 上段　L.6~10　日本聖書協会『聖書』旧約聖書「ヨブ記」9:22、10:2、9:32、9:35

・P.11 下段　L.13~14　前掲書　4:17

・P.15 上段　L.25~下段　L.3　前掲書 3:3、3:10~12、3:16

・P.16 上段　L.15~17　前掲書　20:12~14、20:20~21

・P.16 下段　L.10~13　前掲書　12:3、19:28~29

・P.16 下段　L.18~22　前掲書　24:14~17